



# 「道路事業」 令和6年度北海道開発局事業概要

国土交通省北海道開発局建設部道路計画課

## 事業実施に当たっての方針

北海道開発については、「第9期北海道総合開発計画」（令和6年3月12日閣議決定）において、従来の北海道の強みである「食」と「観光」を一層強化するとともに、再生可能エネルギーのポテンシャルによる「脱炭素化」を新たな価値と位置付け、豊かな北海道を実現し我が国の経済安全保障に貢献することを目指し、北海道の価値を生み出す生産空間の維持・発展を図ることとしています。

道路における具体的な取組としては、「世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成」に向け、農水産物等の輸送を支える高規格道路の整備、新幹線駅に直結するバスターミナルや創成川通（都心アクセス道路）の整備等を推進します。また、「観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり」に向け、道の駅における情報提供の多言語化、シーニックバイウェイ北海道、サイクルツーリズム等を推進します。さらに「ゼロカーボン北海道の実現」に向け、道の駅における急速EV充電施設の設置等を推進します。

気候変動により激甚化・頻発化する水災害や巨大地震等の大規模災害、インフラの老朽化の現状等を踏まえ、「生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり」に向けて、災害時における代替性確保のための高規格道路整備や基幹的な道路ネットワークの強化、社会経済活動を支える道路施設の予防保全型のメンテナンスへの転換、i-Snow等のインフラ分野のDX化による現場の生産性・効率性の向上を推進します。

## 令和6年度の新規事業・開通事業

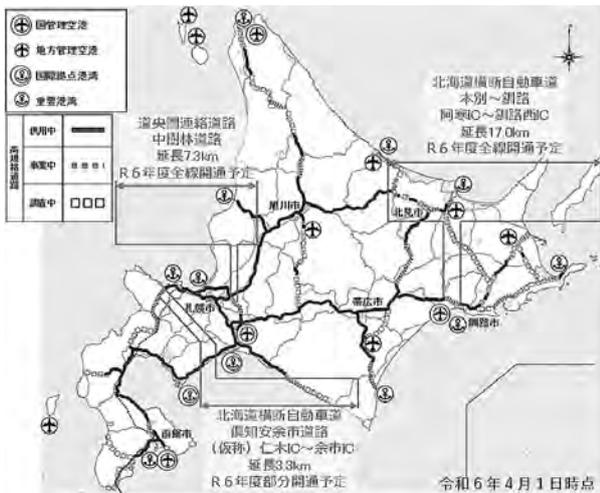
令和6年度は、「国道5号 蘭越倶知安道路（ニセコ～倶知安）」「国道39号 女満別空港網走道路（女満別空港～網走呼人）」の2事業が事業化し、「北海道横断自動車道 本別～釧路」、「道央圏連絡道路 中樹林道路」、「国道38号 釧路新道」、「国道238号 紋別防雪」の4事業が全線開通、「国道5号 倶知安余市道路（共和～余市）」、「国道238号 浜猿防災」の2事業が部分開通する予定です。

主要施策

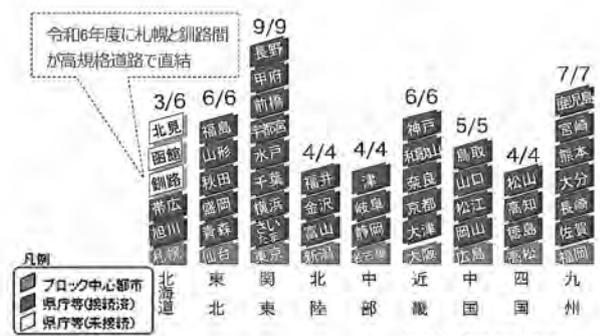
1 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成

(1) 広域分散型社会を支える高規格道路ネットワークの整備

広域分散型社会を形成している北海道において、食・観光等の基幹産業を支えるとともに、国土の強靱性を確保し、地域間の連携強化を図るため、高規格道路ネットワークの整備を推進します。



令和6年度の高規格道路開通事業とR6.4.1時点の整備状況



高規格道路によるブロック中心都市と県庁所在地のアクセス状況

(2) 広域分散型社会を支える交通ネットワークの形成

北海道新幹線札幌延伸を見据え、道内各地を結ぶ高速道路と札幌都心とのアクセス強化を推進するとともに、札幌駅周辺における交通結節機能の強化を図ります。



一般国道5号 創成川通



一般国道5号 札幌駅交通ターミナル整備

都心アクセスの強化

・都心アクセス道路(国道5号創成川通)の整備により、交通混雑、交通事故の低減を図り、都市機能を最大化

新幹線駅との連携

・北海道新幹線札幌駅と一体的に整備  
 ・東改札口及び交通広場を整備し、新たな公共交通システム等の二次交通と接続することで、一大交通結節点を形成

新しいバスターミナル

・都市間バス、路線バスを集約するバスターミナルを整備  
 ・札幌駅周辺において新たなモビリティ等多様な交通モードとの連携により交通結節機能を強化

(3) 北海道型地域構造の保持・形成に向けた物流効率化支援及び地域公共交通支援

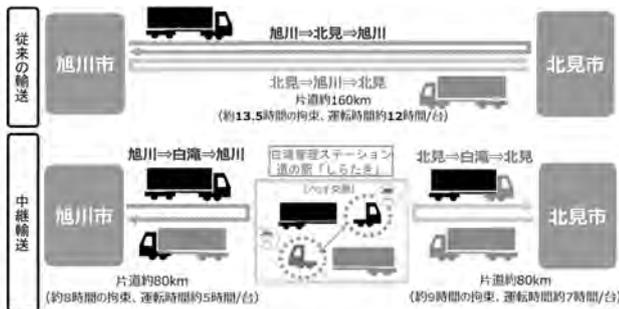
北海道型地域構造の保持・形成を図るため、地方部の生産空間で生産される農水産品の消費地への輸送や、地方部への日用品等の輸送といった物流の効率化を支援します。また、生産空間の利便性向上のため、生産空間と市街地をつなぐ地域公共交通の維持を支援します。

### <物流効率化支援>

○これまで実施してきた道の駅や道路管理ステーション等を活用した中継輸送実証実験を踏まえ、計画的・効率的な中継拠点の実現に向けた検討を推進します。



中継拠点の配置ニーズが高いエリアと道路施設を活用した実証実験箇所



白滝管理ステーション及び道の駅「しらたき」での中継輸送実証実験

### <地域公共交通支援>

○生産空間と市街地をつなぐ自動運転バスの運行を、路車協調システムにより支援します。



路車協調システム (イメージ)



車両検知機器(上士幌町)



自動運転の車両(上士幌町)

## 2 多様で豊かな地域社会の形成

### <「生産空間」の維持・発展に資する「道の駅」の機能強化>

○地方部の「生産空間」を支える都市機能・生活機能の維持・確保を図るため、日常生活サービスを「道の駅」に集約するなど、地域の拠点づくりを支援していきます。「道の駅」の交通結節点化など、地域の拠点化に向けた多様な取組を推進していきます。

#### <「道の駅」を拠点とした交通結節機能の強化>

○「道の駅」を拠点とした、生産空間における持続可能な交通結節機能の強化を推進します。

#### <「道の駅」における子育て環境の創出>

○親子で滞在しやすい子育て環境創出のため、子育て応援施設の整備を推進します。



24時間利用可能な授乳室  
道の駅「ハウスヤルビ奈井江」



屋根付き駐車スペース  
道の駅「風Wとままえ」

#### <「道の駅」における情報提供の多言語化>

○日本政府観光局 (JNTO) 外国人案内所の認定取得や、多言語による観光地案内・道路情報提供の充実等の取組を推進します。

## 3 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

### <「シーニックバイウェイ北海道」の推進>

○シーニックバイウェイ北海道は、地域と行政が連携し、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを行う取組です。平成17年度より開始し、現在、14の指定ルートと3つの候補ルートがあり、約500団体が活動しています。

また、道内各地の活動団体がお薦めする特に魅力ある景観等を有する道路を「秀逸な道」として12区間認定し、景観の維持・形成や誘客に向けた情報発信等を重点的に実施します。また、令和5年から看板を順次設置しており、北海道のドライブ観光をより一層促進します。



沿道の植栽活動(千歳市)



冬期キャンドルイベント(函館市)

### <サイクルツーリズムの推進>

○世界水準のサイクルツーリズム環境の実現に向け、安全で快適な自転車走行環境の改善やサイクリストの受入環境の充実、情報発信の取組を推進します。

#### ●道内10番目のルートが取組スタート

北海道サイクルルート連携協議会と連携・協働し、質の高いサイクルツーリズムを提供するサイクルルートとして「どうなん海道サイクルルート」が取組をスタートしました。

「どうなん海道サイクルルート」は津軽海峡・日本海・太平洋を8の字で結ぶルートに奥尻島を加えた全長約459kmのサイクルルートです。世界文化遺産の「北海道・北東北縄文遺跡群」[垣ノ島遺跡、大船遺跡]、日本遺産の歴史的建造物群を有する「いにしえ街道」などの【歴史】や大沼国定公園、活火山恵山、オクシブルーの海などの【風景】を楽しみながら巡るサイクルルートです。



## 4 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

### (1) 災害からの迅速な復旧を支える道路交通ネットワークの耐災害性強化

「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」(令和2年12月閣議決定)を踏まえ、「防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム(北海道ブロック版)」を令和3年4月に策定し、耐災害性の強化や災害時におけるネットワーク確保のため防災震災対策や高規格道路のミッシングリンク解消を推進します。



災害に強い国土幹線道路ネットワークの機能強化  
(北海道横断自動車道 本別～釧路)



道路法面・盛土の土砂災害防止対策  
(国道238号 稚内市東浦地区)

### (2) 防災、歩行空間の確保、景観の向上に資する無電柱化の推進

道路の防災性の向上、安全で快適な歩行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興の観点から実施している電柱の新設抑制及び無電柱化について、低コスト技術を積極的に導入しつつ、スピードアップを図ります。

### (3) 社会経済活動を支える道路施設の老朽化対策

道路施設が有する機能を長期にわたって適切に確保するため、各施設に応じた点検及び計画的・効率的な維持管理を図り、適切な老朽化対策を推進します。



車載カメラにより路面状況を撮影



撮影動画より路面のひび割れ等をAI評価

### (4) 冬期交通の確保

冬期の安全・安心を確保するため、冬期災害に備え、代替性確保のための高規格道路の整備、国道における防雪対策、防災訓練や住民の意識啓発等を推進します。また、大雪・暴風雪時の取組として、道路管理者間で連携した高速道路通行止め時の並行路線対策やラジオ放送・SNSを活用した情報発信、TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊:リエゾン<sup>\*1</sup>)を含む)の派遣による自治体支援などを、円滑かつ迅速に、きめ細やかに実施します。(※1:重大な災害の発生または発生のおそれがある場合に情報収集等を目的として地方公共団体へ派遣する職員)

### (5) 交通安全対策の推進

事故多発区間での事故データを用いた分析やビッグデータを活用した潜在的危険区間の分析により、事故の危険性が高い区間を抽出して重点的な対策を実施する「事故ゼロプラン」<sup>\*2</sup>を推進するとともに、自転車事故の危険性が高い区間については、自転車走行空間整備を計画的に推進します。(※2:事故ゼロプラン:交通事故の危険性が高い区間である「事故危険区間」の交通事故対策の取組)

また、通学路においては、令和3年6月に千葉県八街市で発生した事故を受けて実施した通学路合同点検の結果に基づき、安全対策を推進します。



子どもの安全な通行の確保  
(国道5号 森町)



追突事故等対策：交差点改良  
(国道12号 旭川市)



正面衝突事故対策：ランブルストリップス (国道5号 八雲町)

#### (6) 除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組 (i-Snow)

人口減少や高齢化が進む中、除雪機械の熟練オペレータの高齢化や担い手不足など、除雪を取り巻く課題の解決のため、準天頂衛星「みちびき」と「高精度3Dマップデータ」を活用した運転支援ガイダンスや、投雪作業自動化の実証実験・実働配備を行っています。機械操作の自動化により、2名体制で行う除雪機械の運転操作が1名体制でも可能となり、人口減少下でも必要な除雪サービスを維持します。

#### (7) 「道の駅」の防災拠点化

近年、激甚化・頻発化する自然災害に備え、各地で広域的な復旧・復興活動の拠点整備が進められており、地域防災計画に位置付けられた「道の駅」において、地域の防災力向上に資する防災拠点の整備や機能向上を図っています。



道の駅「厚岸グルメパーク」



道の駅「阿寒丹頂の里」

#### (8) 北海道道路啓開計画の策定

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震などによる大規模災害時における道路啓開を迅速に行うため、道路管

理者及び関係機関で構成される「北海道道路啓開計画検討協議会」を設立し「北海道道路啓開計画」(令和2年初版、令和4年第2版)を策定しました。

### 5 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現

#### (1) 再生可能エネルギーの導入拡大、脱炭素化等の取組

地球温暖化防止が重要な政策課題となっている中で、北海道の豊かな自然や地域資源を活かしてグリーン社会の実現を主導していくことが求められています。ゼロカーボン北海道の実現に向けた取組を推進し、持続可能な脱炭素社会の形成を図ります。

#### <「道の駅」を活用した次世代自動車普及及び促進の取組>

○令和4年4月に北海道開発局・北海道経済産業局・北海道地方環境事務所・北海道によるワーキングチームを設置し、道の駅設置者である市町村や道の駅管理者と連携し、「道の駅」に急速EV充電施設の設置を目指します。



道の駅「おびら鯨番屋」での充電状況



令和5年度 第1回ワーキングチーム開催状況  
(令和5年6月20日開催)

#### <道路照明灯のLED化>

○道路照明灯をLED化するとともに、設置間隔を広げることにより、消費電力量を削減し、CO<sub>2</sub>排出量を削減します。

#### <効率的・効果的な渋滞対策>

○北海道渋滞対策協議会において特定されている主要渋滞箇所(道内全143箇所)の解消に向けた検討・対策を実施します。

(令和5年度末現在 解除候補箇所：10箇所、対策中：49箇所、検討中：84箇所)

#### <北海道インフラゼロカーボン試行工事>

○工事成績でのインセンティブを付与することで、道内建設業全体におけるカーボンニュートラルの意識醸成を図ります。

#### <自転車活用の推進>

○自転車通行空間の整備やシェアサイクルの普及促進等、自転車活用の推進を図ることにより、交通における自動車への依存を低減し、CO<sub>2</sub>排出量を削減します。